

主 題：恵みシリーズ9、いのちのパン

聖書箇所：ヨハネの福音書 6章41-51節

私たちは今、男だけで5000人の人たちの空腹を満たしたイエスの奇蹟が為された後、群衆がイエスを求めてカペナウムに移動して来たこと、カペナウムはガリラヤ湖の北にあります。彼らに対してイエスが大切なメッセージを語られたところを見えています。そのことがこのヨハネ6章に書かれており、前回からそれを学び始め、今日も、そして、来週も続いて見ていきます。非常に大切なことが語られています。イエスはここで「わたしはいのちのパンである」と宣言されました。もちろん、これは隠喩です。隠喩を用いてイエスが話されたということ、そのことは皆さんお分かりだと思います。では、私たちが考えることは、どうしてイエスはご自分のことをこのように表現されたのか？ということです。

(1) 物質的なこと、この世的なことにはのみ関心を払っている群衆の心を、霊的なことに向けさせるためです。大切な霊的なレッスンを与えるためです。(2) ご自分が永遠のいのちを与えることができる救い主であることを明らかにするためです。「わたしはわたしを信じるすべての人に永遠のいのちを与えることができる」、そのことを今一度群衆に教えるために語られたのです。

前回見たように、イエスは信じるすべての人に永遠のいのちも、本当の満足も与えることができます。イエス・キリストを信じた皆さんはその祝福をいただいて、そのように生きることができるのです。問題はそのように生きているかどうかですが、少なくとも、主イエス・キリストご自身が私たちに教えてくれたことは、クリスチャンは永遠のいのちをいただいただけでなく、この地上にあって、この世が絶対に与えることのできない満足をもって、この世のいかなるものをもって也得ることのできない満足をもって生きる人へと生まれ変わったということです。それが私たちクリスチャンであると見て来ました。ということは、そういう人生を過ごせるということです。もし、過ごしていないとすれば、今すぐそのように生きることです。この祝福を神から十分にいただきながら生きていくことです。

こんなにすばらしい救いのメッセージを聞いていながら、群衆は主に対して心を開こうとしません。主が話されたこと、「わたしは救い主である、私は神である。」ということも聞いても聞いても群衆は心を開こうとしなかったのです。イエスはご自分のメッセージが真実であることを奇蹟をもって裏付けられました。それでも彼らは信じようとしなかった。

今日、私たちが見ようとしているのは、主が「救いは主なる神のみわざである」と教えておられることです。そして、人間の行ないによってはだれひとり救われることはないイエスが教えておられることです。この救いとはいったいどういうものなのか？それは神のみわざであり、人間が一生懸命努力することによって得ることはできないとみことばは教えています。見ていきましょう。

☆救いは主なる神のみわざである

A. 主イエスを拒んだ人々 41-42節

41-42節「ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンである」と言われたので、イエスについてつぶやいた。42 彼らは言った。「あれはヨセフの子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。どうしていま彼は『わたしは天から下って来た』と言うのか。」、主イエス・キリストが「わたしは天から下って来た。わたしは神だ。」と明らかに言われたときに、それを聞いていた群衆はつぶやきました。それはイエスが語られることが真理だと彼らは信じるができなかったからです。なぜ、彼らは信じるができなかったのか？その理由、

1) 人間的判断 : 彼らは人間的な判断に頼ったのです。彼らは言います。「我々はイエスのことをよく知っている。」と。カペナウムはイエスが育ったナザレからそれほど遠くありません。ですから、42節を見ると、恐らく、イエスのことも彼の家族のこともよく知っていた人たちがここに集っていたのでしょう。「あれはヨセフの子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。」、どうして、そのイエスが天から下って来たのか？彼らはイエスが話していること、イエスが為しておられることを正しく理解していませんでした。もちろん、皆さんもよくお分かりのように、イエスはヨセフの子でないことは明らかです。ヨセフは父親ではありませんでした。ヨセフによって生まれたものではありません。聖霊によってイエスは生まれたのです。でも、少なくとも、育って来た家族の關係はよく知っていましたから、彼らは信じられなかったのです。

2) 救いの不必要さ : 彼らがつぶやいたもう一つの理由は、彼らは自分たちには救いが必要だと思えなかったということです。41節に「ユダヤ人」ということばがあります。実は、福音書を見ると「ユダヤ人」という表現は、マタイには5回しか出て来ません。マルコには6回、ルカには4回です。とこ

ろが、ヨハネの福音書には68回も出て来ます。しかも、それらを順に見ていくと、どういう意味でその表現が使われたのかがよく分かります。思い出してください。5章では、38年間病に苦しんでいた人をイエスがいやされたことを見ました。その後、ユダヤ人たちはイエスを殺そうとします。8章でイエスがこのような奇蹟を行なうのは彼が悪霊につかれているからだと言ったのはユダヤ人たちだと書かれています。10章を見ると、イエスを石打にして殺そうとした、その石を取り上げたのはユダヤ人たちです。19章を見ると、ピラトにイエスの処刑を訴え出たのはユダヤ人たちでした。主イエス・キリストが十字架に架かって亡くなられた後、イエスの弟子たちを迫害したのはユダヤ人たちでした。ヨハネ20章に出て来ます。ですから、ヨハネがどうして「ユダヤ人」という表現を使ったのか？よく分かります。神の敵として、神を拒む者として、このようにユダヤ人ということばが使われたのです。

彼らは「自分たちは神の前に正しい」と自負していました。自分たちは神から責められるところは何一つないと信じていました。だから、イエスが取税人や罪人たちといっしょに過ごしている様子を見て、イエスを非難したです。イエスの弟子たちに対して、「なぜ、あなたがたは取税人や罪人たちといっしょに食事をするのか？」と、彼らはこのように常にある人たちを非難していました。彼らを「罪人」と呼んで見下していました。さばいていたのです。なぜなら、自分たちは正しいと信じていたからです。救いの話を聞いても「救いが必要なのは我々ではなくて異邦人たちだ」と思ったのはユダヤ人たちです。

彼らは、自分たちをローマの圧制から解放してくれる救い主なら大歓迎だけれど、罪からの救い主は必要ではないとしたのです。ですから、イエスのメッセージを聞いても聞いても「自分たちには関係ない、自分たちには必要ない。」と思ったのです。ですから、彼らは「つぶやく」のです。イエス・キリストのメッセージを聞いても、イエス・キリストの奇蹟のみわざを見ても、彼らはイエスのことばを信じようとしなないし、イエスの前に罪の赦しを求めて出て行こうとしませんでした。

B. 主イエスによる警告 43-46節

そこで、イエスによる警告が記されています。43節「イエスは彼らに答えて言われた。「互いにつぶやくのはやめなさい。」、「つぶやくのはやめなさい。」とは現在形です。彼らはつぶやき続けていたのです。そこでイエスは「つぶやいてはいけない」と命令を与えています。「今すぐつぶやくのは止めなさい」という命令です。その後、44節を見てください。「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。」、イエスは「つぶやいてはいけない」と言われました。そして、その後にこのことばを語られたのです。イエスはここで何を話そうとされたのでしょうか？イエスがこの群衆に対して、ユダヤ人たちに対して言わんとしたことは「救いについて」です。ずっと、そのことを話して来られましたが、改めて、ここで「救いについて」イエスは教えるのです。なぜなら、人々の「つぶやく」という態度は主の前に明らかに不信仰な態度だからです。主が言われていることを彼らは信じようとしなないのです。その不信仰に対して主は「不信仰を止めなさい」と言って、改めて、「救いとはどういうものか」を教えるのです。実は、これは非常に大切なことですから、皆さんといっしょにしっかり学びたいと思います。

1. 救いは神の恵み 44節

44節でイエスは「救いは神の恵みだ」と教えています。「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。」とあります。

1) 救いは父なる神の働きである 44a節

・父が引き寄せられないかぎり : ***救いは神の恵みです**。神があなたの心に働き、救いを受け入れるようにと導いてくださるのです。同じメッセージが6:65にも「そしてイエスは言われた。「それだから、わたしはあなたがたに、『父のみこころによるのでないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできない』と言ったのです。」と書かれています。イエスはこのように何度も同じことを群衆に教えておられるのです。「父が引き寄せられないかぎり、」、だれも主イエス・キリストのもとに来ること、この救いを受け入れることはいないと言っているのです。ですから、ここでイエスは「救いは父なる神がその人を引き寄せることによってのみ与えられるものである」と言われたのです。100%神の働きであって、人間の働きはゼロだと言います。この後でその説明をします。

2) 救いは人間の働きによるのではない 44a節

「だれもわたしのところに来ることはできません。」とあります。

- ・**だれも** : だれひとりいない、例外がないという意味です。
- ・**できません** : 「何かを行なうこと、また、経験することが可能、出来る」ということの否定です。ですから、ここで言われていることは、何かを行なうこと、何かを経験することができないということです。それが出来る人はだれひとりいないということをイエスは言われているのです。

* **このことは次の二つのことを私たちに教えてくれます**

(1) **人間の力で救われる可能性はゼロ**

あなたの努力で救いを得ることは不可能だということです。だから、だれも主イエスのところに来ることはできないと、そのように言われたのです。では、なぜそうなのか？なぜ、私たちは努力することによって頑張ることによって救いを得ることができないのでしょうか？その理由は、人は自分で自分の罪の心を変えることができないからです。もし、私たちが自分の心を変えることができるなら、罪を犯して来た私たちが罪を犯さない人へと心を変えることができるなら、私たちは自分の努力で自分を救うことができます。エレミヤはこう言います。エレミヤ書 17：9「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」と。どうすることもできない、もう手遅れです、手の施しようがありません、それが人間の心だと言うのです。ですから、私たちは自分の力でそのどうすることもできない自分の心を変えることはできないのです。助けが必要なのです。

ユダヤ人たちは知恵があると思っていました。自分たちはたくさんの知識を持っていると自負していました。しかし、どんなにIQが高くても、どんなに聡明であろうとも、人間の知恵が救いへと導くことは有り得ないのです。パウロはこのように教えています。I コリント 1：20-21 a「20 知者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の議論家はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。21 事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。」、私たちがどんなに知恵を得たとしても、その知恵が私たちを救いません。どんなに宝を積んだとしても、その宝はあなたを救いません。どんなに頑張ってもあなたは自分で自分の心を変えることはできません。つまり、あなたの力であなたを救うことは不可能だと言うのです。

***クリスチャンであるあなたは、神によってこの救いへと招き入れられた。**

まず、このことを主はここで教えてくださったのです。

(2) 人間はだれも救いを求めようとしない。救われたいと思わない。

二つ目の理由は、「だれもわたしのところに来ることはできません。」、皆さんはこれを聞いて驚かれるかも知れませんが、人間はだれも救いを求めようとしないのです。ですから、私たち生まれながらの人間は自らの意志をもって救い主イエス・キリストのもとに来ることは絶対にはないのです。だから、44節にあるように「父が引き寄せられないかぎり、」です。その力がないだけでなく、私たちの中にそのような願い思いが全くないのです。「私は救われる必要があります、罪が赦される必要があります。」と思っている人はだれもいないのです。

ダビデはこのように言いました。詩篇 14：1-3「1 愚か者は心の中で、「神はいない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行っている。善を行う者はいない。2 【主】は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。3 彼らはみな、離れて行き、だれもかれも腐り果てている。善を行う者はいない。ひとりもない。」、敢えて、私たち人間が神のことを少し理解できるようにこのような表現が使われています。「【主】は天から人の子らを見おろして、」とありますが、そんなことをしなくても神はすべての人の心をご存じです。

そして、神は私たちの心がどのようなものであるかも知っています。だれも神を尋ね求めない…と。パウロはローマ 3：10, 11, 18でこのように言っています。「10 それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。」「11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。」「18 彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」、これが私たち人間の姿です。神がいなくても大丈夫ですと。ヨハネもこう言っています。ヨハネの福音書 3：19, 20「19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」と。これが私たち人間です。生まれながらの人間はみな同じで、例外は主イエスだけです。生まれながらの罪人が喜んで神を信じようとするか？しません。却って、私たちはその神からできるだけ遠ざかろうとします。イエスのもとに救いを求めて行こうとしないのは、その必要がないと思っているからです。ですから、このように、私たちは自分で自分の心を変えることもできないし、私たちは神を求めていると、みことばは教えています。

では、なぜ、私たちは神のところに行っただけなのでしょう？生まれながらの性質は神から遠ざかるようにと仕向けるので、私たちはそのように生きて来ました。でも、私たちは神のところへ救いを求めて行っただけです。私たちの生まれながらの性質に全く反することを行なったのです。私たちの意志の力だったのでしょか？皆さんといっしょにこの救いのことを思い出しましょう。あるとき、私たちはだれか、個人からかもしれないし、教会かもしれないし、家庭集会かもしれませんが、いろいろな形で聖書のことばを聞きました。そして、主イエス・キリストが真の神であること、また、主が私のために身代わりになって十字架で死んでくださったこと、そして、三日後にその死からよみがえられたこと、私を罪から救ってくださる救い主であることを知りました。

それだけではありません。私たちはこの神に逆らって生きて来ました。神に対して罪を犯した者であると、そのことに気付かされました。そして、神が備えてくださったこの完全な救いを心から信じてこ

の方に従っていこうと、そのように生まれ変わりました。そして、救われました。大体、このような形で皆さんは救いに与ったはずです。聖書が私たちに教えることは、これらはすべて「神のみわざ」であったということです。父なる神が引き寄せてくださったからこのような選択に至ったと聖書が教えているのです。神を求めていなかったあなたの心に、救いが必要であると悟っていなかったあなたの心に働いて、その心を変えてくださったのが神なのです。神があなたの心を変えて、主イエスによって備えられた完全な救いがあなたに必要なこと、それを心からいただきたいと思うようにされたこと、それが「神の恵み」だと言うのです。Ⅰコリント 1 : 21 b に「…それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」とパウロは記しています。

ですから、信仰者の皆さん、ぜひ、そのことを覚えてください。それがこの聖書が私たちに教えていることです。あなたが神の方に行ったのではありません。神があなたを引き寄せてくださったのです。救い主など必要としていないと信じ込んでいたあなたの心に働いて、あなたの心を変えてくださったのが神です。だから、救いは 100% 神の恵みのみわざだと言うのです。

このメッセージをイエスは群衆に語り続けて来られました。そうすると、そのメッセージを聞いた者たちには当然責任が生じて来ます。聞いたメッセージに対してどうするのか？です。ユダヤ人たちはイエスが語られることを確かに信じませんでした。でも、彼らは言われていることをある程度理解したのです。これまでも見て来たように、イエスのご自分が神だという主張に対して、彼らはイエスを殺そうとしました。メッセージが伝わっていたからです。そこで皆さんに警告として話さなければならないこと、それは、主はこうして救いのメッセージを与え続けてくださる、しかし、それを聞いた者たちが自分の意志をもってそのメッセージを拒み続けるなら、神はどのようなことを警告されているかということです。

ヨハネ 12 : 37 - 40 をご覧ください。「:37 イエスが彼らの目の前でこのように多くのしるしを行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。:38 それは、「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。また主の御腕はだれに現されましたか」と言った預言者イザヤのことばが成就するためであった。」、ここで止まりますが、イエスはいろいろな奇蹟をもってご自分のメッセージが真理であることを明らかにしました。ところが、多くの人たちはイエスを信じませんでした。そして、ヨハネが教えることは「それはイザヤのことばが成就するためであった」です。「:39 彼らが信じることができなかったのは、イザヤがまた次のように言ったからである。:40 「主は彼らの目を盲目にされた。また、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見ず、心で理解せず、回心せず、そしてわたしが彼らをいやすことのないためである。」、主はすばらしい救いのメッセージを語り続けておられますが、そのメッセージを自らの選択をもって拒み続けている人たち、彼らに対して主は「彼らの心をかたくなに」していくと言うのです。

主が彼らの心をかたくなにしたのではありません。彼らがかたくなだから、主はそれを許されて彼らの心は益々かたくなになっていくということです。彼らが真理を見ようとしなから、神は彼らからそれを益々遠ざけていくと言うのです。なぜなら、彼らがその選択をしているからです。非常に恐ろしい警告だと思いませんか？主は確かに救いを受け入れる者にはすばらしい救いを与えてくださいます。しかし、その救いを拒み続ける者たちには、彼らの心は益々かたくなにされるのです。メッセージを何度聞いてもそれを拒み続ける者たちに対する恐ろしい警告です。そして、そのような人たちが私たちの周りにたくさんいることも知っています。彼らはなかなか心を開こうとしません。

ですから、今日、私たちが見て来たヨハネ 6 章でも、イエスは「救いは 100% 神のわざだ」と言われました。そして、イエス・キリストを信じた皆さん、あなたは確信をもってこのように言えるのです。「私ではなくて神が私をイエスのもとに引き寄せてくださった。だから、この救いに与ったのです。」と。同じように福音のメッセージを聞いていても、そのメッセージを拒み続ける者たちに主が与えられる警告は、拒み続けるならあなたの心は益々この福音に対してかたくなになっていくということです。心を開くことです。

ある方はこのように思われたかもしれません。神が救いにおいて 100% 為すことと私たちの責任ということの関連は？と。何度も見て来ましたがここでも改めて主は教えています。私たちの頭ではなかなか理解できません。でも、神はこのように私たちに教えてくださっています。どうすることもできなかった、救いに対して全く心を開こうとしなかった私たちを変えてくださったのは神です。ある人たちは「人間には自由意志があって、その意志によって救いを受け入れるか、それとも拒み続けるかの選択をすることができる」と言いますが、果たして、聖書はそうのように教えているのでしょうか？ノーです。確かに、アダムとエバは自由意志をもって生まれて来ました。ところが、罪を犯した後、罪の奴隷となってしまう人間は、そして、罪の奴隷として生まれて来た私たちは、神に喜ばれる選択をすることができない者として生まれて来ます。今見て来た通りです。光の方に行かないのです。自分のやりたいことをやっていくのです。そのような私たちに神が働いてくださって私たちを神のもとへと導いてくださ

ったのです。だから、私たちは救いはすべて神のみわざであると言うのです。

3) 救いは永遠に失うことがない 44b節

ヨハネ6章に戻って、44節の後半にこのように記されています。「…わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」と。イエスはここで群衆に何を教えられたのか？救いは神の働きである、救いは人間によるのではないと、その上でイエスが44節で教えられたことは「救いは永遠に失うことはない」です。信仰者である私たちはさばきのときによみがえって主の前で神からほうびをいただきますが、そのときまで、主は信仰者であるあなたを決して捨てることはないと言うのです。もちろん、その先も永遠に捨てられることはありません。そのときまで神がちゃんと守ってくれるということです。感謝なことに、神は神に逆らい続けて来た私たちのうちに働いて私たちの心を変えてくださり、この救いを与えてくださった神は、私たちをしっかりとその御手のうちに守ってくださると。だから、救いに与ることは素晴らしいことです。永遠に救いを失うことがない、永遠に神との交わりを失うことがないのです。このような祝福を私たちに与えてくださったのです。

2. 救いは主イエスによる 45-46節

これらのことを話された後、イエスは改めて「救いは主イエスによる」と言われています。どのようにして救われるのか？45節「預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる』と書かれています。父から聞いて学んだ者はみな、わたしのところに來ます。」、これはイザヤ54:13の引用です。「あなたの子どもたちはみな、【主】の教えを受け、あなたの子どもたちには、豊かな平安がある。」、

・神はどのようにして私たちが救ってくださるのか？

1) 神が教える : 父から聞いて学んだ者

神が私たちに教えてくれるのです。神のメッセージを聞いても理解できなかった私たちは、神は理解できるように理解力を与えてくださるのです。私たちは神によって教えられるのです。

2) 神が導く : わたしのところに來ます

神が教え、神が導いてくださる、そのようにして私たちは救いへと導かれたのです。

3) イエスが神である

46節「だれも父を見た者はありません。ただ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。」、改めて、ここでイエスはご自分が神であることを明らかにしておられます。救い主であることを明らかにしておられます。「だれも神を見た者はない。しかし、わたしは神を見た。なぜなら、わたしは神から出た者である。」と。この世に人として来てくださった神だからです。だから、父なる神のことをご存じであるし、イエスが言われることは父なる神のみこころであり、イエスが行なわれることも父なる神のみこころであり、語られたメッセージはすべて真理であると。

今日はこの後を見ることはできませんが、この後、47節から「イエスが救い主である」ことを継続してイエスは教えて行かれます。そして、改めてこのメッセージを与えるのです。「主イエス・キリストを信じる者は永遠のいのちをもつことができる」、「わたしがいのちのパンだ」ということを、この後も教え続けていけます。そのことは次回見ます。

結論 :

今日、私たちが見て来たことは、メッセージを聞いても聞いても信じないユダヤ人たちに対して、イエスは改めてこの素晴らしい救いについてお話になったことです。救いは100%神のみわざでした。神が私たちが救ってくださったのです。パウロは救いに関してこのようなことを言っています。Ⅱテモテ1:9「神は私たちが救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、」と。私たちが今見て来たことをパウロはこのように語っています。こうして私たちは救いに与った。そして、救いに与った者を神は御手のうちに守ってくださる、救いを失うことはないのです。信仰者の皆さん、今日、私たちが学んで来たことは、どんなに素晴らしい恵みを主は私たちに与えてくださったかということです。神が私たちが救いへと招いてくださった。罪から完全に救い出されて私たちの心を新しくして下さり生まれ変わったのです。私たちが何か良いことをしたからではなく、素晴らしい人間だったからでもありません。一方的な神の恵みです。

皆さん、思ったことはありませんか？なぜ、神はこのような私をこんなにもあわれんでくださっているのか？こんなにも愛してくださっているのか？このような素晴らしい祝福を私に与えてくださっているのか？日本には1億2600万近い人がいると言われてはいますが、その中で神はなぜこんな私を罪の中から滅びの中から選んでくださって、救いへと招いてくださったのか？不思議に思ったことはありませんか？

・どうしてこのような恵みを神はあなたに与えてくださったのか？

五つのことをぜひ覚えてください。

1. 謙虚なキリスト者となるため

あなたを謙虚なヘリくだったキリスト者とするためです。こうして、私たちは救いがどういうものかを学んだときに、自分を誇ることはできません。私たちはいったい自分の何を誇ろうとしますか？私たちが自慢して来たあらゆるものは、私たちを救いへと導きませんでした。どんなに素晴らしい仕事を得ていたとしても、仕事は私たちを救いへと導きません。どんなに財産があってもその財産はあなたを救いへと導きません。あなたの学歴はあなたを救いへと導きません。神の恵みによって私たちは救いへと導かれたのです。そのことを知っている者たちは自分を誇りません。私のようなものを救ってくださった神を誇ります。パウロはこう言います。Ⅰコリント1：28、29「:28 また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。:29 これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。」と。誇るのはただ神だけだと言います。私をこんなにも愛して救ってくださった方…。ですから、こうして救いというものを知れば知るほど私たちは神の前に謙虚にされていきます。

2. 感謝するキリスト者となるため

あなたを感謝するキリスト者に変えようとするためです。今見て来たように、すべては神のわざでした。神があなたを選んでくださり、神があなたのために救い主を送ってくださり、その救い主によって完璧な救いを備えてくださり、その救いへとあなたを導いてくださった。そのことを知った者たちがその神の恵みを心から誉め称えるため、その方に心から感謝をささげるためです。

3. 確信をもったキリスト者にするため

今見て来たように、この救いは私たちが一生懸命努力して得たものではありませんでした。もしそうなら、私たちはそれを維持するために努力し続けなければなりません。でも、聖書が教えることは、神があなたに与えてくださったから、神が守ってくださるのです。私たちの希望は神です。私たちの確信は神です。この方がそう言われたから私たちはそれを信じたのです。ですから、私たちクリスチャンは神の約束に立って、神の御力に立って生きるのです。

4. 宣べ伝えるキリスト者にするため

こんな素晴らしい救いを与えてくださった神をあなたが宣べ伝えるためです。こんな素晴らしい救いをくださる神がおられること、求めるすべての人にこの救いが与えられること、そのことを私たちは語り続ける、そのために神はこの救いを与えてくださったのです。

5. 神の栄光のため

私たちはこの方を誉め称えながら歩むのです。詩篇のみことばがこのように教えます。103：1、2「:1 わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ。聖なる御名をほめたたえよ。:2 わがたましいよ。【主】をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」、主が為してくださったことをいつも覚えてこの主を誉め称え続けていく、そうして私たちは神の栄光を現わしていくのです。

少なくとも、私たちは「神はこのような目的で私たちにこの素晴らしい恵みを与えてくださった」と言うことができます。どうぞ、そのように歩んであなたの感謝を現わし続けてください。素晴らしい救いをくださった神、私たちの心を生まれ変わらせて新しくしてくださった神、この神を喜び感謝し、宣べ伝える信仰者として歩み続けてください。

《考えましょう》

1. ユダヤ人たちが主イエスによる救いを拒み続けていた理由を挙げてください。
2. 主は「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。」と言われました。その意味をあなたのことばで書いてください。
3. 罪人には「自由意志」があるのでしょうか？その理由を説明してください。
4. 「わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」の意味を説明してください。